

# 聖路加看護学会

## ニュースレター

第21回聖路加看護学会学術大会を終えて 第21回聖路加看護学会学術大会事務局からの報告 第21回聖路加看護学会学術大会報告  
平成28年度学術交流会報告 一般社団法人聖路加看護学会会員総会のご報告 第22回聖路加看護学会学術大会のお知らせ  
理事長挨拶 お知らせ 編集後記

### ●第21回聖路加看護学会学術大会を終えて

第21回学術大会 大会長 吉田 俊子 (宮城大学 看護学部)

第21回聖路加看護学会学術大会を、平成28年9月17日(土)に聖路加国際大学にて開催致しました。遠く宮城からの開催となりましたが、多くのご支援をいただき、盛会に終了することが出来ました。心より感謝申し上げます。本大会では、『「多元的ケア」をつくる・つなぐ～看護の可能性』をテーマとしました。現在の医療は、高度化複雑化して多職種連携で行われております。また、予定期から終末期の連続性の中で、様々な場でケアが提供され、看護をどのようにつないでいくのかは重要な課題となっています。看護を学際的な視点から考えていくことは、これらの課題解決への大きな力になると思います。平成26年の日本学術会議 健康・生活科学委員会看護学学科会提言「ケアの時代を先導する若手看護学研究者の育成」においても、関連分野との連携・融合による多元的なケアの理念と、具現化する理論や方法論の開発が不可欠であると述べられております。これらのことから、学術大会では「多元的ケア」に焦点をあて、看護をどのようにつくりだしていくか、つないでいくかを考える機会としました。



基調講演の杉下智彦先生(国際協力機構 JICA)は、世界を変える『看護』の力、国際社会における変革者としての看護の重要性を話されました。教育講演の太田喜久子先生(慶應義塾大学)は、これからの医療に求められる看護、多元的ケアの重要性について示されました。またランチョンセミナーにおいて、山本あい子先生(兵庫県立大学)が、災害看護の専門性、学際的に連携した教育の重要性についてお話しをされ、熱いディスカッションが行われました。午後のシンポジウムでは、「多元的ケアをどのようにつくり、地域につなげていくか」をテーマに、多元的ケアの現状と課題解決に向けての方策や教育について、実りあるディスカッションが行われました。今回の大会を通して、看護における多様性や新たな視点を考え、新たな看護の可能性を感じる機会を得ることができたと思います。

### ●第21回聖路加看護学会学術大会事務局からの報告

第21回聖路加看護学会学術大会の企画委員は、宮城大学と聖路加国際大学の教職員でした。今回の学術大会のテーマは「多元的ケアをつくる・つなぐ～看護の可能性」と「連携」をテーマとしておりましたが、図らずも私たち事務局がそれを実感する機会となりました。当初は、宮城と東京という物理的距離が離れている中での学会運営に対する不安も大きく、宮城大学の委員だけでは判断できず、困惑することも多々ありました。しかし、聖路加国際大学の先生方は学会運営のプロフェッショナルでしたので、わからないことを伺うとすぐにメールで対応していただき、大変心強く感じておりました。たとえ、離れていても連携ができていれば、学会運営もできるのだと実感致しました。

大会後、実行委員・ボランティアの皆様から「楽しい学会だった」「充実感があつた」とお褒めの言葉をいただきました。参加者の皆様のアンケートからも、どの企画についても概ね満足だったとの評価をいただき、事務局としてもほっと胸をなでおろしているところです。

本大会が盛況のうちに終了できましたのも、企業展示、講演集への広告・寄附、ランチョンセミナーへの提供など、企業の方々からの多くのサポートをいただきましたおかげと心より感謝申し上げます。また、基調講演・教育講演・シンポジウム・座長および発表者の皆様、実行委員、大学院生のボランティアの皆様にもご尽力いただきました。厚く御礼申し上げます。そして、この一年間一緒に本会を企画・運営してきた企画委員の皆様にも心より感謝申し上げます。



## 第21回 聖路加看護学会学術大会報告

日時 2016年9月17日(土) 10:00-17:00 会場 聖路加国際大学  
大会長 吉田 俊子 テーマ 「多元的ケア」をつくる・つなぐ～看護の可能性

### ◆大会長講演の様子

「多元的ケア」をつくる・つなぐ～看護の可能性

演者：吉田 俊子（宮城大学）

座長：亀井 智子（聖路加国際大学）



大会長講演

### ◆シンポジウムの様子

多元的ケアをどのようにつくり、地域につなげていくか

座長：山田 雅子（聖路加国際大学）

大森 純子（東北大学大学院）

演者：宇都宮明美（聖路加国際大学）

佐藤 大介（宮城大学）

竹谷 洋子（青森県立中央病院）

中村めぐみ（聖路加国際大学 教育センター）



シンポジウム

### ◆一般演題・卒業研究発表の様子

13題の一般演題口演発表と、10題の卒業研究口演発表があり、活発な意見交換がなされました。

学術大会当日は162名の参加があり、「多角的ケア」について様々な角度から学ぶ一日となりました。



口演発表



## 平成28年度学術交流会報告

### 「明日から活かせる看護実践

#### —臨床に求められる看護教育者とは—

今年度の学術交流会は、聖路加国際病院のCNE（Clinical Nurse Educator）の方々：池田葉子氏、金子あや氏、島田伊津子氏、中村加奈子氏を講師に招き、2016年9月17日（土）聖路加国際大学にて開催しました。看護師・教員・大学院生など様々な立場で看護教育に携わる30名が集い、臨床看護教育における日頃の悩みを共有し、問題解決の糸口を見出すために肩を寄せ合って話し合う交流会となりました。



### 参加報告

“臨床における看護教育の上級実践者であり、臨床に軸足を置く看護学教員”という役割をもつCNEの方々から投げかけられた「臨床看護教育についての関心や悩みは何か」という問いに参加者は思い思いに自身の経験を語りあうことができました。

「いまの新人や学生は、言葉で説明しなければ確認できない。昔のようにあうんでは伝わらない。すぐに答えを求めて、なぜ?という疑問をもたな



い。そんな新人や学生にどう教えたらいいか悩む」という意見に対し、CNEの金子氏は、「新人のニーズや価値観は多様で、理解することは大変だが、それこそ重要な鍵だと実感している」と話した上で、新人のペースに合わせた段階的な教育の手法について説明して下さいました。

また、「新人に“業務”の内容は教えることができて、“看護の質”や“看護師としての態度”を教えることは難しい」という課題もあり、参加者からは「教えることが難しいことこそ、もっと臨床で語る機会を作り、看護の現場で育むことが重要と感じる」という意見が交わされ、臨床実践における思考を言葉にして伝えていくことの重要性を確認しました。

看護系大学増加の勢いが弱まることのないなか、様々な教育背景をもって現場に来る新入職員の理解は容易ではありません。しかし、今後も臨床と教育の現場が密に情報交換をしていくことで学生から新人への段差のない教育が実践できるのではないかと期待の声も出ました。

教育と実践の架け橋となるCNEを中心として、多様な価値や考え方に対応した教育の形を追究していくための端緒となる貴重な会となりました。

（学術交流委員）



## 一般社団法人 聖路加看護学会 会員総会のご報告

聖路加看護学会 小林京子 奥裕美（庶務担当）

一般社団法人 聖路加看護学会会員総会は、2016年9月17日（土）に、聖路加国際大学アリス C. セントジョンメモリアルホールにおいて、出席者約30名で開催されました。学会の一般社団法人化に伴い、最終決議機関は総会から評議員会に移行しました。そのため会員総会では、評議員会で承認された2015年度の決算および監査、2016年度の活動経過などが報告されました。

また、名誉会員として青木康子氏、2018年度に行われる第23回学術大会長として野末聖香氏（慶応義塾大学）が理事会より推薦され、評議員会にて承認されたことも報告されました。青木氏には、本学会への長年のご貢献に感謝し、名誉会員証と花束を贈呈いたしました。

一般社団法人化後、理事・監事が交代して初めての総会となりました。ご参加いただいた会員の皆さまのお力添えをいただき、無事に終了しましたことをご報告申し上げます。引き続き、会員の皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

## 第22回聖路加看護学会学術大会のお知らせ

第22回聖路加看護学会学術大会は、2017年9月16日に開催されます。皆様どうぞご参加ください。

会期：2017年9月16日

会場：聖路加国際大学 大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター  
大会長：亀井智子（聖路加国際大学大学院看護学研究所・研究センター PCC 実践開発研究部）

テーマ：超高齢社会を支える People-centered Nursing Care の開発  
大会長講演

「超高齢社会に求められる People-centered Nursing Care とは」

事前参加受付 2017年3月14日から8月31日

演題募集：2017年3月14日から5月31日正午まで



亀井智子 大会長

皆様、はじめまして。このたび、山田雅子前理事長の後任をお引き受けすることになりました。どうぞよろしく願い申し上げます。

今期の理事会はこの6月をもって正式にバトンを受け取りました。そして、去る9月17日の第21回学術大会当日、法人化後第2回目となる総会を開催いたしました。法人化により、総会の趣は変わりましたが、毎年のように出席される会員の皆様や早朝から参加された皆様が変わらぬ学会への関心の強さを感じながら、これまでの1年間の学会のあゆみをご報告し、次年度に向けた取り組みをご紹介いたしました。

第21回学術大会は、宮城大学教授の吉田俊子氏を大会長に、「『多元的ケア』をつくる・つなぐ～看護の可能性」を主題に開催され、多職種連携によるケアの創生と調整に果たす看護職への期待とそれに応える責任を強く感じる大会となりました。次年度は、聖路加国際大学教授の亀井智子氏による「超高齢社会を支える People-Centered Nursing Care の開発」が主題です。まさに時のテーマ、期待が高まります。

さて、当学会は、実践に重きをおく学会として、また看護におけるあらゆる分野の研究の発表の場として多くの皆様にご活用いただいています。基礎教育を終えた卒業生や大学院学生の初デビューの発表からベテラン実務家の発表まで幅広く場を提供しています。

法人格をもった意味を自覚し、今後はますます社会貢献をめざして学会運営を進めて参りたいと存じます。そのために、会員の皆様にはこれまで以上にアカデミックな貢献をもってこの法人を支援していただきたいと思います。具体的には、口頭発表の場として大会をご活用いただき、それを是非当学会誌へご投稿ください。当学会誌は早くからダブルブラインドによる査読を実施し、CINAHL 検索で抄録を読むことができる格調ある看護専門誌です。記事は国内検索でPDFファイルとしてダウンロードできますので、多くの方に利用いただいております。当学会誌のエビデンスを実務においてクリティークしつつ適切に活かしていただくのも重要な社会貢献と考えます。

これからの社会へより寄与するために、看護実践内容を高める研究、高齢社会をより健康にする研究、子どもと子育て世代がより健康に過ごすための研究、異文化間での看護の共同研究、看護の可能性を広げる研究などをますます盛んに行い、世に発信して参りましょう。



## お知らせ

### ★学術交流委員会

2016年度の学術交流会は「明日から活かせる教育実践～臨床で求められる看護教育者とは～」と題して、開催いたしました。本集会では Clinical Nurse Educator の4名（池田葉子氏・島田伊津子氏・金子あや氏・中村加奈子氏）により、CNE の取り組みの現状と臨床での実践教育の問題・解決技法についてご講義いただきました。看護系大学の多様化による教育の問題については、様々な立場の参加者とのグループディスカッションを通して、今後の教育方法への示唆を得ることができました。

第21回聖路加看護学会学術大会において、「聖路加看護学会看護実践科学助成基金」事業による2015年度の助成対象者2名の発表がありました。2016年度の助成基金の募集は11月より学会ホームページに応募要領を掲載いたしますのでご覧ください。皆様のご応募をお待ちしております。（担当理事：真田弘美）

### ★庶務

6月に理事・監事が交代し、新しい体制での学会が始まりました。新理事長をはじめ、役員、評議員、委員会の各メンバーを学会ウェブサイト（<http://slnr.umin.jp/index.html>）に掲載しています。さて会員のみなさまには、勤務先（所属）、住所、メールアドレスの変更等がありましたら、学会事務局（[slnr@slcn.ac.jp](mailto:slnr@slcn.ac.jp)）までご連絡下さいませよう

お願いいたします。また、聖路加看護学会会員は、準学内利用者として、聖路加国際大学図書館を使用できます。是非、周囲の皆さまへの入会をおすすめ下さい。（担当理事：小林京子、奥 裕美）

### ★学会誌編集委員会

本学会では、「オンライン投稿システム」を導入しております。論文作成時は、このシステムにUPされている「論文作成フォーマット」をダウンロードして原稿をご用意ください。投稿期限は、例年11月末日、5月末日です。皆様の投稿を、委員一同おまちしております。特に、学術大会で発表された研究はぜひ、本学会誌に投稿いただけますようお願い申し上げます！（担当理事：有森直子）

### ★会 計

2015年度の会費納入率は74%でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。今年度（2016年度）の会費納入がお済みでない方は下記口座にお振込みをお願いします。

振込先：郵便振替口座：00100-8-670371

加入者名：聖路加看護学会

来期会計年度は2017年4月1日～2018年3月31日で、会計年度に変更はありません。（担当理事：中村めぐみ、吉川久美子）

## 編集後記

今号より、ニュースレター委員が交代いたしました。今号がweb配信第1号になります。お近くの会員様でweb配信についてご存じない方がおられましたらどうぞお伝え下さい。これからも全国におられる会員の皆様の情報共有・情報発信のツールになれるようにニュースレターを作成してまいります。（ニュースレター委員会）